

お祖師さまをお訪ねする物語

第8回



高祖日蓮大士ご降誕
800年慶讃

お祖師さま（高祖日蓮大士）が三十六歳の時の正嘉元年（一二五七）。鎌倉に頻繁（しきりにおこる）に天変地異（地震や大雨など、自然がもたらす災害）が起こり、多くの人々が苦しめられたんだ。お祖師さまは、その天変地異の原因を見つけて出そうと駿河国（静岡県）へ。今回は、「岩本実相寺」のお話をするね。

岩本実相寺

お祖師さまは、「昔から《仏教の弘まっている国は、平和で、その国に住む人々は安穩（心が落ち着き穏やか）である》といわれているのに、なぜ日本の国はこんな「天変地異」が起こり人々を苦しめるのか？」と大変疑問に思われていたんだ。

そこで、なぜ「天変地異」が頻繁に起こるかを調べるために、「一切経（仏様のすべての教えを集めたもの・仏教の百科事典のようなもの）」のある駿河国の岩本実相寺という天台宗のお寺に、お弟子の吉祥磨（日朗上人）と向かわれたんだよ。

昔、円珍（智証大師）という僧侶が唐（中国）から、二部の「一切経」を持ち帰ったんだ。そのうちの一部を岩本実相寺が護持（大切に守って持つ）していたんだね。

だから、当時の比叡山（滋賀県・仏様の教えを勉強するには一番の学校）と同じよ



岩本実相寺の一切経蔵



経堂にこもって一切経を読まれるお祖師さま

うにこの岩本実相寺には、沢山の僧侶がやって来て勉強に励んでいたんだよ。

この頃、岩本実相寺で学頭（学校長）をしていた智海法印（天台宗の僧侶）という人はお祖師さまが、比叡山の横川（平成三十年二月号を読んだね）で学んでいた時の学友（同じ学校で一緒に学んだ友だち）だったんだ。

仏様の「一切経」があったことや、学友がいたことから、お祖師さまは、この岩本実相寺にやって来られたんだね。

岩本実相寺にいる間、お祖師さまは、多くの僧侶たちに勉強を教えているんだよ。その時の僧侶の一人が、お祖師さまの学徳（勉強ができ、正しい行いができる）を慕い（あこがれる・ひかれる）、お弟子にな

られたんだね。その人が、後の六老僧（お弟子の中でも特にすぐれた六人の僧侶）の一人である「日朗上人」なんだ。また、学頭であった智海法印も後にお祖師さまのお弟子となり「日源」と名前をいだけられたんだよ。



一切経蔵の内部

岩本実相寺で「一切経」を閲覧（書物などを調べたり読んだりすること）されたお祖師さまは、鎌倉に戻られたんだ。そして、文応元年（一二六〇）七月十六日、お祖師さまは《天変地異が何度も起るの日本に国に間違った信仰が弘まっているからです。このままでは国は乱れ、よその国が攻めてきて、国が減んでしまいます。今すぐ日本の国全体で「御題目のご信心」をさせていただきますよう！》と書かれた書き物（有名な「立正安国論」）を、鎌倉幕府の権力者の北条時頼に差し出されたんだよ。

お祖師さまが「一切経」を閲覧され、二人の新たなお弟子が誕生するキツカケとなったこの「岩本実相寺」は、十四世紀の始めに天台宗のお寺から日蓮宗のお寺に改宗（今まで信じていた宗教や宗派を捨てて他の信仰に入ること）されたんだよ。



日朗上人の「米とき井戸」

岩本実相寺には、お弟子の吉祥磨（日朗上人）も一緒であったが、さすが「給仕第一」のお弟子だけに、境内地には、お祖師さまにお給仕した吉祥磨が使ったと伝えられている「米とき井戸」がある